

平和な未来をつくるために

糸魚川中学校 2年2組 山崎 茉音

私は今回の広島派遣を通して戦争、原爆の恐ろしさ、悲惨さについて学びました。その中で特に心に残っていることは3つあります。

1つ目は、呉市の大和ミュージアムです。そこには、10分の1スケールの戦艦「大和」の模型があります。私は「アルキメデスの大戦」という映画を小学校の時に見て、戦艦「大和」に興味を持ちました。実際に見て、10分の1サイズでもとても大きかったので驚きました。私は「大和」などの今でも造ることが難しそうな当時の優れた技術を平和のために活用することができていれば、たくさんの戦没者を出すこともなかったのではないかと思います。

2つ目は、平和記念資料館です。そこには被爆者の方の遺品や原爆の悲惨さを示す写真や資料がたくさん展示されています。その中で、私にとって特に印象深いものは「人影の石」です。爆心地から260メートルにあった銀行の入り口の階段が切り出され、その石には座っていた人の影がくっきりと残っていました。私には石が熱によって変色したのか、座っていた人が溶けてしまったのかは分かりません。しかし、どちらにしても亡くなった方は、物も言えないまま亡くなってしまったのだと思うと、心が痛くなりました。

3つ目は、被爆体験講話です。お話を聞かせていただいた波田保子さんは、当時9歳の時に爆心地から20km離れたところにある学童疎開先で被爆されました。波田さんのお父さんは原爆の影響で病気になり、波田さんは家庭崩壊の

中で中学校を卒業してすぐ朝から晩まで働いていたとおっしゃっていました。私ともあまり変わらない年なのに、このような生活を耐えることは想像以上にとても辛いものだと思います。

今回の平和記念式典の「平和への誓い」でこども代表の2人が言っていた「過去に起こったことを変えることはできません。しかし、未来は創ることができます。今度は私たちの番です。」という言葉にとても共感しました。平和な未来を創るために、平和の尊さ、戦争、原爆の恐ろしさを知っていなければなりません。人は忘れる生き物です。原爆による悲劇を忘れないために広島に行って学んだことを家族や友人など、多くの人に伝えていきます。また、これから母から勧められた「きけ わだつみのこえ」という本を読みたいです。

最後に、大雨やコロナなどで対応が大変な中、私たちを広島派遣に連れて行って下さった市職員の方々、そして一緒に学んだ生徒の皆さん、本当にありがとうございました。
